

支援されたくない世代を 支援するにあたっての作法

－居場所とユースワークを手掛かりに－

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット
代表理事 松田 考

地域とともに“健全な青少年”の余暇（自主）活動を育む



専門機関とともに“困難を抱えた子ども・若者”を支援

「この2つは地続きなのか、別モノなのか」

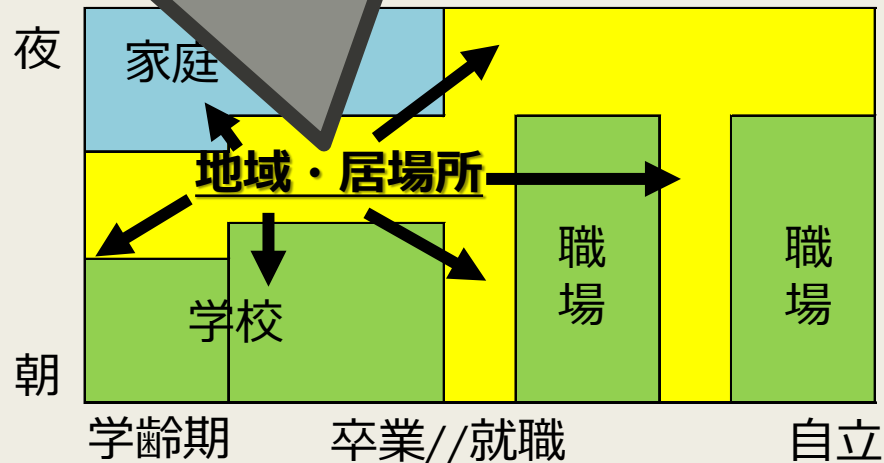


これらを統合したものをユースワークと呼ぶ（仮）

子ども・若者の何を「支援」するのか

個人ではなく社会の課題として

ヤングケアラー状態や
貧困などの背景によって
この部分（時間）でさえ
社会と自分が分断される



子どもたちが真に豊かに育つために大事なことは
放課後や余暇を自ら選択して過ごせること



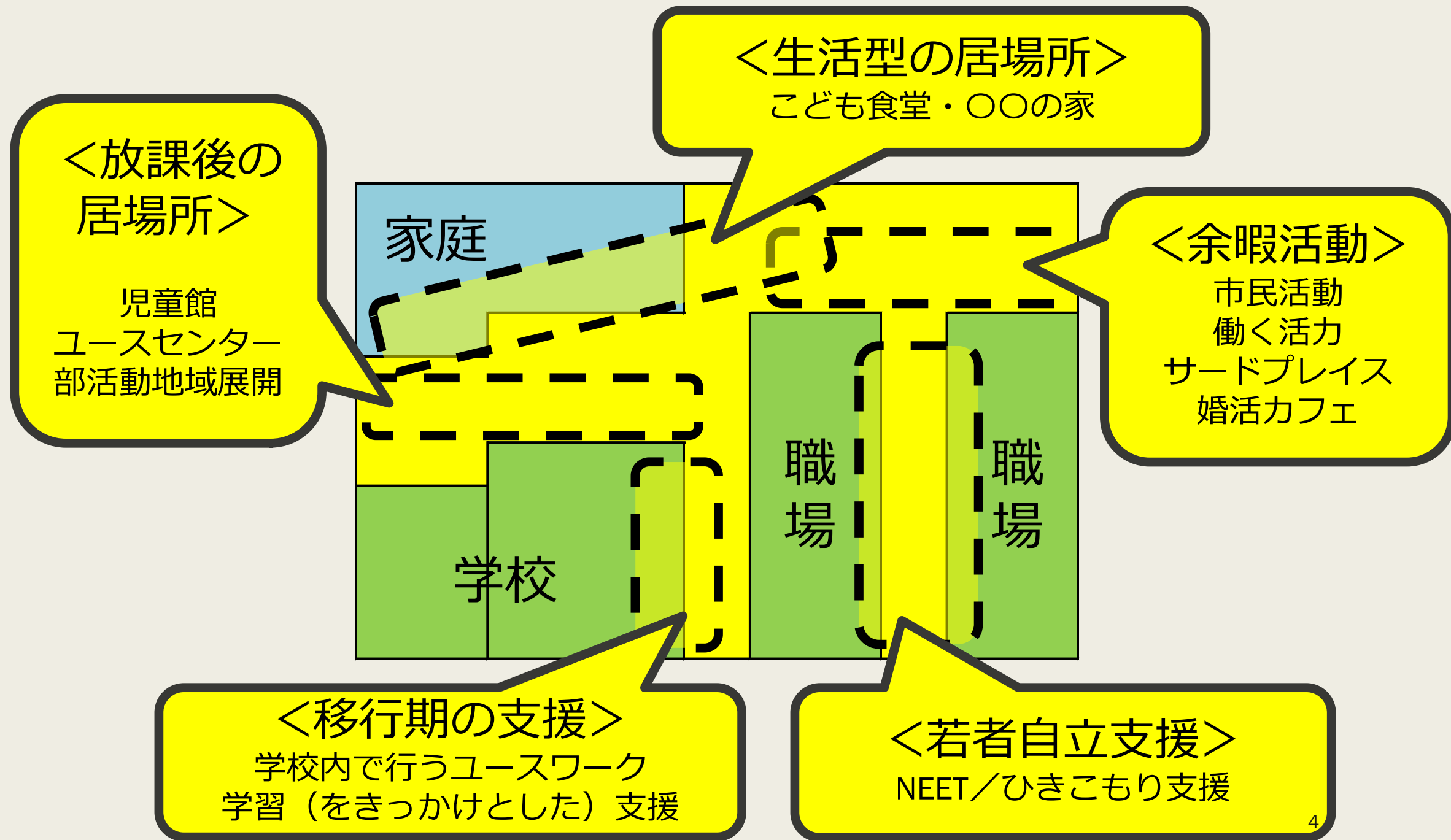
しかし！

世課（よか）を楽しむことが
そのまま「最高の支援」になる

家や学校を超えた出会いが
そのまま「人生の転機」になる



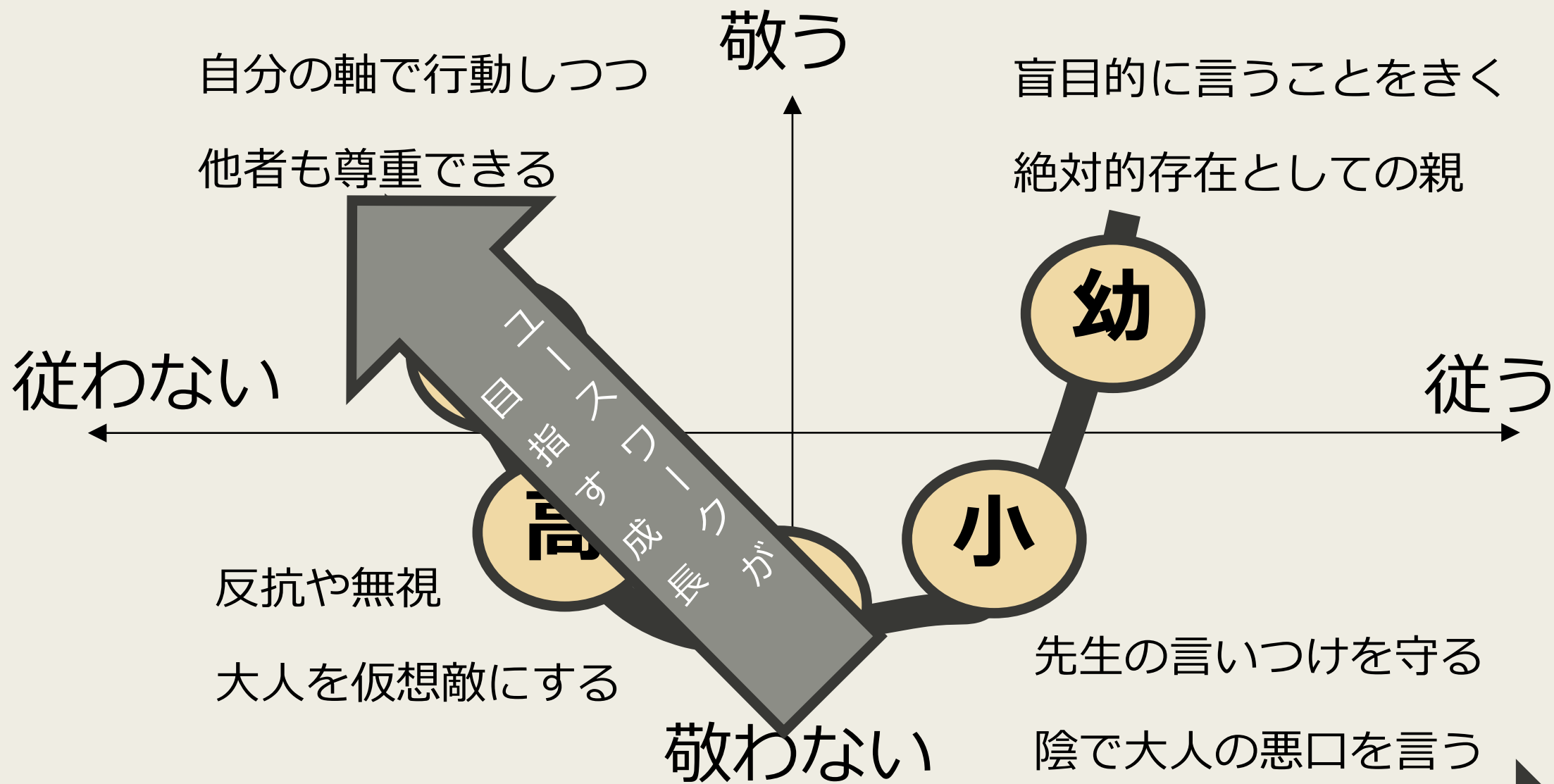
全ての子ども・若者を「社会で」育てる



場	大人	関わり	ルールや正解
1 st 家	親	育てる	大人側の 経験と価値観
2 nd 学校・職場	先生 上司	教える	大人側の 知識と伝統
3 rd 居場所	ユース ワーカー？	ともに遊ぶ？ 支援する？	若者本人の 内なる声

しかし、何のプロなのか
分からないから軽視される

正解を手放して、子ども・若者と関わり
それでもなお「意味ある他者」でいる
→権利の概念と相性が良い



教育者が陥りがちな「従わせようとして、成長を邪魔する」ベクトル



「専門家の相談室」では
10日間で10人の
緊急事態を救える

でも・・・
その10倍くらいの
「相談したくない人」とは
出会えずにいる

この2つを繋ぐことが
最強のセーフティネット



「街の居場所」では
10日間で100人の子と
仲良くなれる

でも・・・
そのうち10人くらいの
「SOSのサイン」を
見過ごしている

若者の育ちを邪魔する3つのH
(ひま・はらぺこ・ひとりぼっち)

行けば何かやってるかも
行けば何か食えるかも
行けば誰かいるかも



約束ではなく期待で繋がる

